

令和8年度

第1回本巢市総合教育会議議事録

(令和8年7月14日)

本巢市教育委員会

第1回本巢市総合教育会議議事録

- 1 開 会 令和8年7月14日(火) 午前10時00分
- 2 閉 会 令和8年7月14日(火) 午後0時15分
- 3 会議場所 本巢市役所本庁舎 3階大会議室
- 4 出席者又は欠席した構成員

(1) 出席構成員

市 長 藤原 勉
副 市 長 谷口 博文
教 育 長 川治 秀輝
教育委員 小澤 明年
教育委員 黒田 隆吉
教育委員 松浦 尚美
教育委員 藤木 節子

(2) 欠席構成員

なし

5 説明のため出席した者の職氏名

市 長 部 局 総務部長	林 晃弘
教育委員会事務局 事務局長兼教育総務課長	高木 孝人
参事兼学校教育課長	薄田 茂樹
参事兼幼児教育課長	脇田 純一
参事兼社会教育課長	長屋 和宏
学校教育課主幹	植田 さゆり
幼児教育課主幹	登尾 裕美
本巢小学校長	板蔭 典子
本巢小学校教諭	清水 則文
外山小学校長	長沼 有希子
弾正小学校長	串田 茂
弾正小学校教諭	菊池 怜大
真桑小学校長	池田 勉
真桑小学校教諭	河合 真由子
席田小学校長	岡田 英隆
席田小学校教諭	上山 諒
土貴野小学校長	山口 真理子
土貴野小学校教諭	中田 心
一色小学校長	安藤 貴広

一色小学校教諭	山口 雄大
本巣中学校長	岩井 隆史
本巣中学校教諭	佐々木 友喜
真正中学校長	川瀬 貴子
真正中学校教諭	山田 陸生
真正中学校教諭	箕浦 奎武
糸貫中学校長	京谷 貴幸
糸貫中学校教諭	田代 高之
根尾学園校長	野原 徹二
根尾学園教諭	長澤 佑樹
本巣幼児園長	堀内 寿幸
神海幼児園長	山田 和浩
糸貫西幼児園長	中村 ユミ
糸貫東幼児園長	丹羽 美彦
真正幼児園長	清水 康孝
真桑幼児園長	堀江 秀樹
弾正幼児園長	岩井 隆司
教育総務課課長補佐 兼教育総務係長	高田 茂和

6 協議事項

「本巣市こどもの権利条例」の実現

～「子どもを主語」にしたみんなの学校を実現するために～

(1) 各学校の実践発表

本巣小学校	自分とすべての仲間が幸せになる居場所のある学校へ
外山小学校	今も未来もだれもが幸せな外山小
弾正小学校	笑顔があふれ、誰もが幸せな学校
真桑小学校	自身と笑顔にあふれ、安心して学ぶことができる学校
席田小学校	安心と主体性を育む学校を目指して
土貴野小学校	安心感と居場所のある学校 ～誰もが自分を表現できる子どもへ～
一色小学校	どの子も「かがやく自分」のために
本巣中学校	いつまでも愛があふれ愛を届け続ける本巣中と生徒を目指して
真正中学校	439人（生徒393人＋学びのパートナー）と共に真正の学 びをつくる
糸貫中学校	みんなが幸せだと思える学校にしたい
根尾学園	すべての人が幸せな学校

(2) 交流

(3) 木村泰子先生の講評

開会 午前10時00分

薄田課長 : 開会の宣言。市長にあいさつを求めた。

藤原市長 : 本巢市の教育にはここ数年、非常に大きな改革の動きがあり、目を見張る変化が生じている。その結果、本巢市の教育を「是非市外から見に行きたい」「そこに参加したい」という関心の声が、各市や各県からも聞こえるようになってきた。こうした大きなうねりを生み出す中で、一番現場で苦労を重ねているのは、学校の最前線に立っている校長先生方である。昨年、今年と、これまでにない苦労をされていることと思う。行政としては、これまでの素晴らしい取組の数々を聞かせてもらいながら、学校現場の熱心な挑戦が具体的に豊かな実践へとつながっていることを実感し、大変満足している。校長先生方には、その後も毎日の現場で子どもたちと顔を合わせ、温かく見守りながら共に過ごしていただいており、その日々の献身的な姿勢に心より深く感謝している。このような現場の地道な努力を今後も支えるため、子どもたちのために様々な面からしっかり応援をさせていただく。

.....

薄田課長 : 本日の会議の目的だが、昨年の「こども会議」で子どもたち自身から「安心感や居場所をつくる」という言葉が出た。これは、子どもたちが当事者として本気で学校をつくってきた証であり、現在、子どもも先生も当事者として学校運営に携わっている。本日は『『自分の学校は自分がつくる』の、その先へ』をテーマに、各校の実践から学び合い、アイデアを共有しながら本巢市の教育をさらに前へ進めていきたい。

薄田課長 : 各学校長に発表を求めた。

各学校長 : (実践発表)

薄田課長 : 他校の実践から「明日から自校で活かしたいこと」などを感想を交えて語り合うよう、交流を呼びかけた。

田代教諭 : 居場所づくりという言葉はすごくキーワードになると感じている。不登校傾向の生徒が、友達と登校する道のりにこそ自分の居場所があったと話してくれたことから、何が子どもの居場所なのかを個別に丁寧に見つめる必要がある。絵を描くことや何かに没頭すること自体が居場所になる子どももいるため、自校で進める「学び合いデー」などの活動を安心できるコミュニティとして機能させ、一人一人の居場所を保障していきたい。

長澤教諭 : 修学旅行の際、普段は大人が先回りして手助けしていた改札の通過や座

席探しを子どもたち自身に任せたところ、見事に主体的にやりきった。大人がよかれと思って行う先回りが、実は子どもの可能性を狭めていたと気づかされた。少人数環境の中で現状を変える自信を持てずにいる子どもたちに対し、保護者や地域を交えた対話を重ねることで、自ら一步を踏み出す勇気を育てていきたい。

堀内園長 : 各学校の実践から、子どもたちと共に「自分たちで学校を動かす」という確かな鼓動を感じた。重いものを動かすには最初の強いパワーが必要だが、一度動き出せば自走していく。今はまさにその最初の一步の、大変な生みの苦しみの時期なのだと思う。

今回の「居場所づくり」において考えたい点が2点ある。1点目は、「自分を褒める力（自己肯定感）」である。他者からの支援も大事だが、最終的には自分で自分を認めて褒める力が育たなければ居場所づくりは完結しない。2点目は、「共同主体」における教師側の主体性である。子どもの自己決定を支えることは、単に甘えさせることではなく、民主的な合意形成の力を育てることである。幼児期からこの「教職員側の主体性」も大切にし、共にこれからの教育をつくっていきたい。

薄田課長 : 木村泰子先生に講評をお願いした。

木村泰子氏 : 市長から「校長先生たちは大変だろう」という温かいねぎらいの言葉があったが、まさに「大変」とは文字通り「大きく変わる」と書く。今、本巢市の学校は大きく変わろうとする好機にあり、校長先生たちの「やるしかない」という強い覚悟が本日の発表に十分現れていた。

この権利条例の出発点は、不登校の子も含めた当時の本巢市内の全小中学生2,514人全員が考え、言葉にした「すべての仲間が幸せになるために」という、とびきりの第1条にある。子どもたちは常にこの原点を振り返り、大切にしてきた。これに対し、校長の真の責任（ミッション）は、すべての不登校の子も含めた一人一人の子どもの命と、学ぶ権利を学校現場で100%保障することである。

学校生活を楽しいと答える多数派の95%だけでなく、そうではないと答えた5%の届かない声をどれだけ吸い上げ、信頼関係を築き、教職員間で合意して自分事として行動を変えていけるかが、真の課題となる。教師主導の「学級」という既存のシステムや指導に頼るあり方を捨てない限り、本当に子どもに権利を返すことはできない。学校に戻ったら、子どものいない教室を回り、掲示物や階段の表示を点検してほしい。「子どもの権利を保障する」目的に適っているかを問い直すことが大切である。上手くいかないことがあるのは当たり前であり、上手くいったと思った瞬間に学校は崩壊する。上手くいかないことが当たり前であるとい

う不完全さを受け入れながら試行錯誤を続ける学校づくりを、これからもパートナーとして共に歩んでいきたい。

薄田課長 : 教育長にまとめの言葉を求めた。

川治教育長 : お互いに学び、見直してもう一度新しいチャレンジに向かう、そんな学校に関わる全員の強い思いが伝わってきた。学校という生き物が新しいエネルギーを生み出し、組織や細胞のように繋がり合いながら生き生きと機能し始めている。

本巢市の教育という視点で見ても、市長、教育委員、校長、そして現場の教職員、幼稚園長、さらに木村泰子氏が一同に会して本音で対話するこのような総合教育会議は、全国どこを探してもないオンリーワンのものだ。それぞれの学校が個性を輝かせつつ、同じ方向を向いて「チームもとす」としての教育を創造し、子どもたちが幼小中と繋がってぐんぐん成長していく姿には深い感動を覚える。私たちはこの成果に一喜一憂せず、さらに前へ進む方法を毎年問い直していきたい。

また、本日の実践から、校長たちがまさに当事者として「覚悟」を決めたことを強く感じた。自分の足元や基盤を固め、そこに教育信念を注ぎ込み、リーダーシップを自らの行動で示している。一番考え、一番最初に行動しているのは校長自身であり、その行動力こそがリーダーシップの本質である。

今年度は、こどもの権利条例に基づく教育の実践と、みんなの学校づくりという2点に重点を置いて取り組んできた。サポーターの増加や、不登校・欠席の減少といった確かな成果は喜ばしい。しかし同時に、話し合いの中で先輩たちがずっと気にかけてきた特別支援学級の子どもの現状や思いを、私たちはどれだけすくい取れているだろうか。

そして何より、日々の学校訪問で目にする授業が、教師一人一人の熱意によって本当に「子どもが主語の授業」に転換できているか。まだまだ前向きな一斉指導による授業は数多くあるが、発表された高い理念と、実際の授業現場との間にあるギャップに、強い疑問と課題を感じている。子どもにとって一日の生活の大半を占める「授業」がどうあるべきか、もう一步踏み込んで繋げていかねばならない。

一緒にバージョンアップしながら、止めずに進化していく本巢市の教育をみんなで作ってみたい。

.....
薄田課長 : 閉会を告げた。

閉会 午後0時15分